

# く か 供花

## ある供花の物語から

慎<sup>つ</sup>ましく貧しく生活しているひとが、一本の花をみ仏様にお供えしたところ、長い間、しあわせの<sup>くどく</sup>功德をいただきました。

また、牛追いをして暮らしていたひとが、道端に咲いた花をみ仏様にお供えしたところ、大切な<sup>くどく</sup>功德をいただいたという物語があります。

## お花でお浄土

花の美しさ、実にその形・色・香りはひとのこころを和ませてくれます。

お内仏は、お浄土の世界だといわれます。それは、お花で荘厳され、お燈明が灯され、実に満ち足りたすばらしい世界です。

## お花は枯れる

お供えした花は、枯れないように水を<sup>き</sup>注したいものですが、時間が経てばいつかは枯れます。そのことで、「いのち」あるものは永遠ではない、ということをお大切な教えとして学びましょう。

出典 幡谷敦信「三月教案」供養  
（『児童と宗教』3巻3号より、一部抜粋、現代語訳）  
リライト “サガエさん” こと佐賀枝夏文